

第 87 回麻布獣医学会 一般演題 14

国内飼育下および輸入両生類におけるカエルツボカビ (*Batrachochytrium dendrobatidis*) 汚染状況

田向 健一¹, 宇根 有美², 富永 篤³, 鈴木 一隆⁴, 五箇 公一⁴

¹ 田園調布動物病院, ² 麻布大・獣医病理, ³ 琉球大・教育, ⁴ 国立環境研

世界的規模の両生類減少の一因とされるカエルツボカビ (*Batrachochytrium dendrobatidis*, 以下 Bd) の拡散は, 両生類の国際的な商取引によって増長されたとされる。そこで我々は, 国内飼育下および流通する外来両生類を対象として, Bd 汚染の実態を明らかにすることを目的として調査を行った。

【材料と方法】

2008 ～ 2011 年の 4 年間にペットとして飼育, 流通している両生類 22 科 109 種 820 匹より体表拭い物を採取し, Nested PCR 法で Bd 遺伝子を検出し, 塩基配列を解析した。輸入個体については輸入後 14 日以内に検体採取を行った。その総数は, 飼育下両生類 47 種 259 匹で, うち輸入業者由来 561 匹で, 原産地は 21 ヲ国となった。

【結果】

820 匹中 76 匹 (9.3%) から Bd が検出された。内訳: 無尾類 20 種 64 匹, 有尾類 7 種 12 匹。国内飼育下両生類の保菌率は 6.9% (18/259) であり, 輸入両生類の保菌率は, 10.3% (58/561) であった。陽性個体の

原産国は 9 ヲ国 (ブルガリア, ドイツ, 日本, マダガスカル, ペルー, タンザニア, タイ, アメリカ, ベトナム) で, 日本とドイツ由来の陽性 24 匹は全て繁殖個体で, 他国由来の 52 匹は野生採集個体であった。塩基配列解析では 10 ハプロタイプが検出され, 国内両生類からは国外と比較しもっとも多い 5 ハプロタイプが検出された。陽性 76 匹のうち 57 匹 (85%) が A タイプ (輸入 89.7%, 国内産 27.8%) であった。

【まとめ】

本研究により OIE リストに掲載されている病原体である Bd が, 現在でも国際商取引を介して国内に持ち込まれていることが明らかになった。また, 輸入個体での高検出率は輸送時の過密, Bd 汚染環境からの暴露, ストレスなどによる水平感染の成立, 易感染性上昇によるものと考えた。なお, 野生採集個体に関して, 本成績が現地の野生個体の Bd 感染状況を反映しているかどうかについてはさらなる調査が必要である。